第 34 回
昭和医科大学学士会シンポジウム

セカンドライフにおける がん検診を考える

オンデマンド配信にて開催

2025（令和 7）年 8 月 23 日（土）～ 9 月 24 日（水）

第 34 回昭和医科大学学士会シンポジウム

セカンドライフにおけるがん検診を考える

コーディネーター

昭和医科大学大学院医学研究科消化器内科学分野　教　授　　吉田　　仁

1. 超高齢者化社会を迎える我が国の肺がん検診－過去から未来へ－　（25 ～ 30 分間）

昭和医科大学大学院医学研究科呼吸器アレルギー内科学分野　准教授　　楠本壮二郎

2. セカンドライフ世代に寄り添う大腸がん検診の実践

－科学的根拠と価値観をつなぐ医療へ　（25 ～ 30 分間）

昭和医科大学大学院医学研究科消化器内科学分野　准教授　　片桐　　敦

3. 膵癌におけるがん検診　（25 ～ 30 分間）

昭和医科大学大学院医学研究科消化器内科学分野　講　師　　石井　　優

4. 高齢者に対する乳がん検診　（25 ～ 30 分間）

昭和医科大学大学院医学研究科乳腺外科学分野　教　授　　林　　直輝

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【開催】期間中下記 URL にて公開

2025 年 8 月 23 日（土）～ 9 月 24 日（水）

https://vimeo.com/showcase/11758770?share=copy

パスワード　20250823gakushikai

◆昭和医科大学学士会会員と昭和医科大学所属者向けの公開です.

1．超高齢者化社会を迎える我が国の肺がん検診
－過去から未来へ－

昭和医科大学大学院医学研究科呼吸器アレルギー内科学分野
准教授　楠本　壮二郎

我が国において、肺がんは年間約 12 万人が罹患し、その死亡数、年間約 7.5 万人であり、男女合計で、がん死亡の一位となっている国民衛生上、重要な疾患である。肺がん検診の効率性を上げることは、肺がん死亡数の減少につながると考えられている。欧米では重喫煙者に対する低線量 CT 検査が検診として行われており、複数の無作為化比較対象試験の報告から、死亡率減少に対する効果が示されている。しかし、我が国においては胸部単純 X 線を中心に、年齢や喫煙歴から喀痰細胞診を追加する方法が肺がん検診として長らく行われてきた。我が国の肺がん検診ガイドラインについては 2006 年以降、改定が行われていなかったが、欧米での試験結果も踏まえて検証を進め、我が国の検診の特性に合わせ、2025 年 4 月に『有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン 2025 年度版』として提言されている。主な改定点としては、重喫煙者に対して、胸部 X 線に喀痰細胞診を併用する方法について、科学的根拠に乏しいことから『実施しないことを勧める』となり、代わりに低線量 CT を行うことを勧めるとされている。しかし、この提言では、80 歳以上の年齢層については科学的根拠が乏しいことから言及されていない。我が国は、世界一の超高齢化社会となっており、多くの医療的、社会的問題に直面している。その点にも言及しながら、肺がん検診の過去から未来について論じていきたい。

【ご略歴】

2003 年　3 月　昭和大学医学部　卒業
2003 年　4 月　昭和大学医学部　第一内科学講座
2005 年 10 月　せんぼ東京高輪病院（現：JCHO 東京高輪病院）内科
2006 年 10 月　昭和大学医学部第一内科学講座
2008 年　4 月　昭和大学医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門　助教
2012 年　4 月　山梨赤十字病院内科・呼吸器科（副部長）
2013 年 11 月　昭和大学医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門　助教
2016 年　4 月　昭和大学医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門　講師
2024 年　9 月　昭和大学医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門　准教授

【専門医等資格等】

医学博士（昭和大学）
日本内科学会 総合内科専門医・指導医
日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

2. セカンドライフ世代に寄り添う大腸がん検診の実践 －科学的根拠と価値観をつなぐ医療へ

昭和医科大学大学院医学研究科消化器内科学分野
准教授　片桐　敦

本邦では大腸がんが男女ともに高い罹患率・死亡率を示しており、特に 60 ～ 75 歳の「セカンドライフ世代」においてリスクが顕著に増加する。この世代は自立した生活が可能でありながらも、がん罹患リスクが上昇するため、早期発見・早期治療を実現する大腸がん検診の重要性が高い。しかし、高齢化の進展により、検診の対象年齢や実施方法、そして個々の価値観に配慮したアプローチが求められている。

本講演では、科学的根拠に基づく検診の意義と限界を再確認しつつ、「誰に、どのように届けるか」という視点から、セカンドライフ世代に寄り添う大腸がん検診の実践について考察する。便潜血検査（FIT）の有効性や限界、安全性の観点からみた内視鏡検査のリスク（穿孔 0.05 ～ 0.18%、出血 0.02 ～ 0.9%）を整理し、余命 10 年以上が見込まれる患者において検診が利益をもたらすことを確認する。

さらに、Shared Decision-Making（共有意思決定）に基づく医療のあり方を紹介し、医師と患者が協働して最適な検診方法を選択するプロセスの重要性を述べる。

本講演を通じて、セカンドライフ世代における大腸がん検診のあり方と科学的根拠と個人の価値観をつなぐ「寄り添う医療」について共有したい。

【ご略歴】

1999 年　3 月　昭和大学医学部卒業
2003 年　4 月　昭和大学医学部第二内科学教室　員外助手
2004 年　1 月　あそか病院　消化器内科
2005 年　1 月　昭和大学医学部第二内科学教室　員外助手
2005 年 10 月　～ 2006 年 9 月　国立がん研究センター東病院（国内留学）
2007 年　7 月　昭和大学医学部第二内科学教室　助教
2014 年　4 月　昭和大学横浜市北部病院消化器センター　講師
2017 年　4 月　昭和大学藤が丘病院消化器内科　講師
2019 年　4 月　昭和大学医学部内科学講座消化器内科学部門　准教授

【所属学会】

日本内科学会　総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会　指導医　関東支部評議員　学術評議員
日本消化器病学会　専門医

3. 膵癌におけるがん検診

昭和医科大学大学院医学研究科消化器内科学分野
講師　石井　優

日本人の死因１位は悪性新生物であり、中でも膵癌は早期発見が極めて困難で予後が非常に悪い癌として知られている。膵がんの罹患数と死亡数は年々増加しており、膵癌の死亡数は全癌腫で３位と上昇している。膵癌は進行が早く、症状出現時・診断時には進行した状態で見つかるため、早期の発見が望まれる。一方で膵癌のがん検診は確立されておらず、自治体の対策型検診に含まれていない。また、膵癌に罹患する年齢も 60 歳以降に増加しており、定年退職後に膵癌と判明することが多いのが現状である。定年後の「セカンドライフ」を健康に、そして安心して過ごすためには、病気の早期発見と予防が必要である。尾道市医師会は膵癌早期診断のために、膵癌の危険因子を有する症例にスクリーニングの腹部超音波検査を行い、膵管拡張や膵嚢胞が描出された場合には、地域の中核病院に送るというプロジェクトを行った。この取り組みにより５年生存率の改善がみられ、現在多くの場所で病診連携プロジェクトが行われている。一方で人間ドックにおける超音波検査の膵癌発見率は、大腸がん検診や乳がん検診と比較して依然として低い水準にある。膵癌ががん検診に含まれるためには、糖尿病・家族歴などを指標としたリスク層別化による対象者選定などが必要になると思われる。本講演では、膵癌の早期発見に向けて、私たちが取り組むべきこと、可能な対策について概説する。

【ご略歴】

2010 年　３月　昭和大学医学部医学科卒業
2010 年　４月　昭和大学病院　初期臨床研修医
2012 年　４月　昭和大学医学部内科学講座消化器内科学部門
2014 年　７月　関東労災病院消化器内科
2016 年　４月　昭和大学医学部内科学講座消化器内科学部門　助教
2021 年　４月　昭和大学医学部内科学講座消化器内科学部門　講師

【資格】

日本内科学会：認定内科医・総合内科専門医
日本消化器病学会：専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会：専門医・指導医
日本肝臓学会：専門医
日本腹部救急医学会：教育医
日本膵臓学会：認定指導医
日本胆道学会：認定指導医

4. 高齢者に対する乳がん検診

昭和医科大学大学院医学研究科乳腺外科学分野
教授　林　直輝

我が国は世界に先駆けて超高齢社会に突入しており、乳がん検診の在り方についても年齢に応じた再評価が求められている。これまで乳がん検診は主に 40 ～ 69 歳を対象としたマンモグラフィが推奨されてきた。高齢者に対する検診の有効性については、乳腺が脂肪性に変化することでマンモグラフィ検査での精度は上がるものの、70 歳以上の検診の目的である予後改善に関する十分なエビデンスが存在しない。予後に影響の無い所謂、過剰診断のリスクも上昇する。

高齢者が乳がんと診断された場合、乳がん診療ガイドラインにおいても、高齢者にも標準的治療を行うことが妥当と示されているが、高齢者ではホルモン受容体陽性の比較的進行が緩やかな腫瘍が多い。しかし、高齢者への治療のエビデンスも限られており、慎重な判断が必要である。化学療法の適応判断には ADL/IADL、併存疾患、栄養状態、認知機能、社会的要素などを評価した包括的高齢者機能評価（CGA：Comprehensive Geriatric Assessment）が推奨されている。

化学療法などの全身治療を避けるため、乳がんは早期発見が重要になるが、国内外のガイドラインでは検診は「余命 10 年以上」「フレイルでないこと」などを条件に検診継続の可否を個別に判断することが提唱されている。一方、強い家族歴や遺伝性乳がん卵巣癌（HBOC）に関わる BRCA1/2 変異を有するハイリスク者では、生涯乳がん罹患リスクも年々高くなるため、継続的なモニタリングが望ましいとされる。今後は年齢のみならず、リスク層別化と健康状態を踏まえた検診戦略の導入に進む必要がある。

【ご略歴】

2000 年　3 月　東海大学医学部卒業
2000 年　4 月　聖路加国際病院　外科
2006 年　4 月　～ 2008 年 12 月 聖路加国際病院　乳腺外科
2008 年　4 月　～ 12 月　慶應義塾大学医学部先端科学研究所遺伝子制御研究部門　共同研究員 兼任
2006 年　1 月　～ 2018 年 8 月　昭和大学第二病理学教室　研究員 兼任
2008 年 11 月　～ 2011 年 8 月　The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Department of Breast Medical Oncology, Visiting Scientist
2011 年　8 月　～ 2022 年 9 月　聖路加国際病院　乳腺外科
2012 年　5 月　医学博士取得
2022 年 10 月　昭和大学医学部外科学講座乳腺外科学部門　主任教授

【所属学会等】

日本外科学会・指導医　日本乳癌学会・指導医　日本乳癌学会・評議員
American society of clinical oncology
日本臨床外科学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会等

◆昭和医科大学雑誌◆

「昭和医科大学雑誌」（和文誌）および「The Showa Medical University Journal」（英文誌）は、J-STAGE（科学技術振興機構の電子ジャーナル出版プラットフォーム）にて、論文全文 PDF を公開しています.

昭和医科大学学士会ホームページ「学会誌」のリンクからも、J-STAGE 公開頁に入れますので、是非ご高覧ください.

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◆「昭和医科大学雑誌」＜特集＞のご案内◆

第 85 巻 3 号（2025 年 6 月号）掲載

テーマ　【内視鏡 AI の最前線】

巻頭言：工藤 進英 教授　　昭和医科大学横浜市北部病院消化器センター

1. 内視鏡 AI の現状と展望
2. 内視鏡 AI：海外の状況
3. 内視鏡 AI の薬事規制について
4. 炎症性腸疾患の診断と治療における AI の現状
5. 人工知能支援下デジタルパソロジー解析による，早期大腸癌の治療戦略

第 85 巻 5 号（2025 年 10 月号）掲載

テーマ　【医療系ビッグデータと薬剤疫学】

巻頭言：今井 志乃ぶ 教授

昭和医科大学薬学部社会健康薬学講座薬剤疫学部門

1. 臨床薬剤師による臨床リスク評価と医療ビッグデータ活用の展望
2. 薬局薬剤師視点で実施する医療ビッグデータ研究
   －薬局薬剤師による、薬局薬剤師のための、ビッグデータ解析のススメ－
3. 妊娠と薬領域における医療ビッグデータ
4. 高齢者総合機能評価 DASC-21 とポリファーマシーとの関連
5. 薬剤経済評価における医療系ビッグデータの応用可能性

【昭和医科大学学士会ホームページ：学会誌】

◆第72回昭和医科大学学士会総会　開催案内◆

会　　期：2025 年 11 月 29 日（土）　昭和医科大学 4 号館
　　年次報告，教育講演，一般演題・学位論文内容発表
演題募集：2025 年 9 月 1 日（月）～ 9 月 19 日（金）

【教育講演】

1. 「多様化する前立腺癌治療の最前線」
   深貝 隆志　教授　　昭和医科大学大学院医学研究科泌尿器科学分野
2. 「骨免疫学の新時代へ向けて」
   塚崎 雅之　教授　　昭和医科大学大学院歯学研究科口腔生化学分野
3. 「自らの肩痛に終止符を―臨床知見とエビデンスで紐解く五十肩・肩こり」
   西中 直也　教授
   昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野

【教育講演】は会場から Live 配信（Zoom）も行う予定です．
配信につきましては、11 月上旬頃に学士会 HP 上に申込先を掲載いたします．

昭和医科大学学士会ホームページ
https://www10.showa-u.ac.jp/~gakushikai/gakushikai.html

昭和医科大学学士会
〒142-8555　東京都品川区旗の台 1-5-8　昭和医科大学内
Tel.　03-3784-8074　Fax.　03-3784-7444